

第 19 号

2016年12月23日
(平成28年12月23日)

ソムリエの風

特定非営利活動法人
奈良まほろばソムリエの会会報紙

発行 特定非営利活動法人
奈良まほろばソムリエの会
広報グループ
〒630-8001
奈良市法華寺町 254-1
株式会社奈良ロイヤルホテル内

毎日新聞奈良版「ディスカバー！奈良」の連載がスタート



毎日新聞奈良支局による説明会 (12/3)

平成29年1月から毎週木曜日、毎日新聞朝刊の奈良版に、奈良の見どころや年中行事を紹介する「ディスカバー！奈良」という連載が始まります。執筆者は当会メンバー22人。チェック役は当会広報グループの9人です。ぜひご注目ください！（専務理事 鉄田 憲男）

平成28年は、充実の1年でした
今年はさまざまな行事がありました。写真とともに振り返ってみます。

6月19日（日）には奈良ロイヤルホテルで「発足5周年記念 祝賀パーティ」を開催するとともに5周年記念誌『奈良まほろばソムリエの会の歩み』を刊行。

9月19日（月・祝）には、5周年を記念し「湖北観音の里巡拝バスツアー」を実施（39人参加）。



女王卑弥呼の地元紹介 (10/30)

10月30日（日）にはやまと郡山城ホールで「奈良まほろばソムリエ大会」と銘打ち、ウォーキングツアーや女王卑弥呼による観光スポット紹介、樞考研の菅谷文則所長による講演会「倭国の女王卑弥呼」（291人参加。うち一般参加者180人）を開催。



菅谷文則氏による講演 (10/30)

さらに11月27日（日）には奈良ロイヤルホテルで「年末交歓会」（納会）を開催しました（53人参加）。とりわけ保存継承グループによる「市町村指定文化財調査」の発表に、注目が集まりました。



保存継承グループの発表 (11/27)

来年も、新たな企画を続々展開

今年は古都奈良アカデミー（奈良婦人会館）や奈良シニア大学などの講話に、会員は引っ張りだこでした。これらは来年もますます拡充されます。奈良検定の普及にも、引き続き取り組みます。



奈良テレビで合格指南 (11/18放送)

来年は新入会員向けの説明会や、既存の会員であまり活動されていない人向けのフレンドリーな交流会などを企画中です。好評のバスツアーも継続予定。ますます充実の当会の活動に、皆さんも引き続きご協力・ご参加をお願いいたします。



当会5周年記念「湖北観音の里巡拝バスツアー」を好評開催 (9/19)

ソムリエの会の皆さまにひとこと



顧問 木村三彦氏

このたび、奈良まほろばソムリエの会顧問を引き受けさせていただくことになりました、橿原市在住の木村と申します。どうかよろしくお祈りいたします。

ソムリエの会といえば、「ソムリエという大変難しい試験にパスした優秀な人たちの集まり」といったところが一般の認識かと思えます。社会的には半分尊敬と

半分は羨望の目で見られている会ではないでしょうか。

発足以来5年、会員数も300人を越え、現在ではガイドグループを初め7グループに分かれて県下で活発に活動しています。その結果、会の知名度も次第にアップしてきたと思います。

私は長年、奈良県観光ボランティアガイド連絡会の仕事に携わって来た関係で、県下の多くのガイドを含む観光関係の人との付き合いがありますが、最近偶然にも全く別の3人からよく似た話を耳にしました。そのことを僭越ながら「苦言」という形で書かせていただきます。

私が聞いた話では、「ことあるごとに“自分はソムリエ合格者だ、

ソムリエの会員だ”と自慢したり、言葉でいわなくてもそのような態度をとる会員がいる。少くくなら良いがそれがあまり頻繁だと不愉快で鼻につく」とのことでした。もちろんほんのごく一部の人の人だと思えますが、これは決して会にとって良いことではないと思います。ソムリエ合格者としての誇りを持つことは大いに結構です。が、同時に謙虚であってほしいものです。

ソムリエの会が今後、人々から尊敬され奈良県の文化や観光にますます寄与する会になるためにも、このことを一人ひとりが心がけてほしいと思う次第です。

ソムリエの会が、さらに飛躍するためにも切望してやみません。

シリーズ「古墳を楽しむ」

奈良公園の中ですっぽりと収まってしまふ奈良県で一番小さな町、三宅町には5世紀後半から6世紀前半の前方後円墳を中心とした「三宅古墳群」がある。

現在17基の古墳が確認されておりその殆どは半壊状態であるが、東西約1.5km南北約2kmの狭い範囲に集中し、コンパクトに古墳散策が出来る穴場的な古墳だ。

しかしその存在は意外と多くに知られていないのが残念である。古墳石室派マニアには少々物足りなさを感じるだろうが、古墳そのものより四方いづれを眺めても殆ど遮る建物もなく、東に龍王山、西に金剛生駒の山々を望む豊かな田園と古墳が一体となる大和の風景画として見られると良いだろう。



寺の前古墳

何気ない田んぼの真ん中にポツンと浮かぶ島のような姿を見せる「寺の前古墳」や、なすがままに畑化された「茄子塚古墳」、名前の期待より小ぢんまりとした「天王塚古墳」など周濠跡とみられる田の畦道のカーブが美しくどの古墳にも愛着が湧く。

エリア内を、近鉄橿原線や田原本線が走っているのですスタートする駅はどこからでも選べる。無名古墳も田畑のあちこちに点在して

いるので、それらしき高まりを探しながら歩いてみるのも面白い。



茄子塚古墳

また三宅古墳群は未来に伝えたい、奈良のええとこ再発見「奈良遺産70」の一つにも認定されている。これまで未調査であった古墳の調査も本格的に実施され、古墳を町の観光資源へと活発な動きをみせる三宅古墳群に今後の期待が高まる。

(道崎 美幸)

ソムリエ合格体験記



「どなたでも入会できます」というホームページの案内に勇気を得て、2級合格後「奈良まほろばソムリエの会」に入会しました。

初めて参加した記紀万葉サークルのウォーキングでは、皆さんの深く幅広い知識と、普通の観光とは一味も二味も違う説明にビックリ。「ソムリエって凄い!」と

圧倒されました。これを機に、ソムリエになりたい気持ちが湧いてきました。

1級合格後、おこがましいとは思いましたが、ガイドグループに加入。ガイドの研修や下見では知識の差に落ち込むばかりでしたが、修学旅行で奈良を訪れて以来の私には致し方ありません。皆さんの親切なサポートに力付けられ、楽しく続けることができました。

同時に講座グループの受験対策講座に通い、詳しく分かり易い講義と詳細な資料で学びました。また受験仲間です話することも励みになりました。試験では四択問題だけでなく、四百字対策の予想問

題がバッチリの中。お陰さまで、今年、ソムリエ級に合格することが出来ました。

5年前に夫の転勤で東京から大阪に移住し、全く奈良の知識のないところから始めたソムリエ検定試験でした。順調に3年で合格出来たのは、ソムリエの会の様々な活動に参加させていただき、懇切で的確なアドバイスをいただいたお陰と感謝しています。

ありがとうございました。

しかし、やっとスタート地点に立てたばかりです。これから経験を重ね、奈良の魅力を楽しく紹介出来るよう学んでいきたいと思っています。 (山崎 愛子)

シリーズ「奈良県の鉄道遺産」

今号より、奈良県の「鉄道遺産」を紹介させていただきます小林です。ソムリエ歴は6年ですが“鉄”歴は40年以上。これまで歴史探訪サークルの例会でも何度かご案内しましたが、会報紙上で奈良に残る「鉄道遺産」を紹介させていただきます。

初回は私が勝手に”奈良県最大の鉄道遺産”と思っている「五新線」(五新鉄道とされることが多いが、国鉄の路線として計画されたので「五新線」が正しい)。

「五」はもちろん五條、それでは「新」はと言えば、なんと新宮。紀伊半島を縦断して五條と新宮を結ぶという壮大な計画でした。ちょうど日本一長い路線バスとして知られると奈良交通の「八木新宮」線に沿ったルートです。

工事は戦前の昭和12年にス

タートしましたが戦争で中断。地元の陳情で昭和31年に再開しましたが、今度は採算性が問題となり再度中断。結局列車が走ることはなく、その代替として城戸まで路線バスが軌道敷を「バス専用道」として走りましたが2年前に廃止されました。



賀名生皇居横に行くお別れバス

五条市街地に残るアーチ形が美しい高架橋がよく知られていますが、国道168号線を南へ走ると、あちこちで橋梁などの遺構に出会えます。中でも最大のものは、



宗川橋梁

城戸から少し南に下った宗川に架かる「宗川橋梁」。オレンジ色の近代的な鉄橋が国道からもよく見えます。橋には「1974年日本鉄道建設公団」の銘板がつき、塗装記録の表示はなんと「1996年6月」。使われることがなくても適切な維持をしなければ危険だからでしょうか。

これら五新線跡の活用方法はまだ決まっていないようですがNPO法人「五新線再生推進会議」を中心に検討が始まっているようです。 (小林 誠一)

「茶筌(ちゃせん)の里」高山

真冬のウォーキングなら、「茶筌(ちゃせん)の里」高山がお薦めだ。

高山城跡、高山竹林園(円楽寺跡)、高山八幡宮、法楽寺などを参拝・拝観して、茶筌作りをぜひ見学したい。



竹干し。拝見することができるのは厳冬期のみ

田んぼや庭先の竹干しを見ながらのウォークである。「この地だけ、この時期だけ」の光景だ。天日にさらされて淡竹は、硬くて身の締まったつやのある竹に変わっていく。

はじめに高山城跡を訪れる。室町期の鷹山氏の居城である。上部

が45度回転した十三重石塔が残されている。茶筌の里高山を考える上では欠かせない場所である。

高山竹林園では、茶筌の材料となる淡竹を拝見する。維管が細くて数が多いのが淡竹で、茶筌やヒゴの材料とされている。



竹茗堂当主、久保左門氏

竹茗堂にて久保左門氏の茶筌作りの技を拝見する。茶筌の歴史、作り方を解説しながら小刀を軽やかに扱いながら、茶筌作りをす

めていく。

○茶筌は一節の竹で作る。

○切った竹を細く裂き、さらに内外(うちそと)に裂き分けて、内側の穂はしごき曲げ、外側も先端を小さくカーブさせていく。外穂の数は64本、これに内穂が対応して合わせて128本の穂である。一本の竹が切り分けられ、裂かれて曲げられて茶筌になる。

大和、山城、河内の三国の国境がこの高山だった。傍示(ほうじ)という領域を示す地名が残されている。国越えの旅人も多かったのだろう、「国見気質」の言葉が生まれるほど世の中の動きに敏感な地域だった。茶筌業の隆盛はそんな土地柄も背景だったといえるのではないだろうか。

(竹茗堂はお抹茶を頂いてお一人500円。日程の調整が必要である)

(雑賀 耕三郎)

<ガイドグループからのお知らせ>

会員のみなさん！ぜひ、お知り合いにガイドグループのガイド利用をお勧めください。ご希望の日に、ご希望のところへ、奈良の本当の魅力を味わう旅にご案内します。お気軽にご相談下さい。お問合せ・お申込みは、ホームページ(『ソムリエと巡る』で検索)から。また、ひとりでも気軽に参加できる募集ツアー、来春の8コースを企画中です。(2月より受付開始の予定)

<編集後記>

早いもので、今年も残りわずかとなりました。みなさんの1年はどのような1年でしたか？ソムリエの風は無事4回発刊し、今回で19号となりました。新しいシリーズ「奈良県の鉄道遺産」も始まりました。次号はついに記念の20号です。お楽しみにお待ちください。

秋山・上谷・窪田・小林(誠)・雑賀・沢田・竹内・豊田(敏)・永井・中村・橋口・廣岡・二上・松森・吉川・米山

特定非営利活動法人 奈良まほろばソムリエの会

事務所所在地：〒630-8001 奈良市法華寺町254-1

株式会社奈良ロイヤルホテル内

ホームページ：<http://stomo.jp/>

メールアドレス：info@stomo.jp

つれづれ日記(ブログ)：<http://nara-stomo.seesaa.net/>



HPのQRコード

